

Sapid インストールマニュアル

–CentOS (64bit)–

愛知県立大学 情報科学部 山本研究室
長尾隼多

2015年11月30日

1 使用する OS, パッケージの環境

Sapid を導入するためにインストールする OS, パッケージ等の環境を以下に示す.

| OS, パッケージ | バージョン |
|-----------|------------|
| CentOS | 7.1.1503 |
| Sapid | 6.104.4 |
| gcc | 4.8.3-9 |
| g++ | 4.8.3-9 |
| flex | 2.5.37-3 |
| bison | 2.7-4 |
| openjdk | 1.8.0.65-2 |
| ant | 1.9.2-9 |
| tk-dev | 8.5.13-4 |
| imake | 1.0.5-10 |
| libXt | 1.1.4-6.1 |
| libxml2 | 2.9.1-5 |

表 1: OS, パッケージとバージョン

OS のバージョンは以下のコマンドで確認する.

```
$ cat /etc/redhat -release
```

2 準備

前に示したパッケージを以下の方法でインストールする.

まず, パッケージをインストールするために以下のコマンドで root 権限を得る (要 password).

```
$ su -
```

上のコマンドを打った後に以下のコマンドで各パッケージをインストールする.

```
# yum -y install gcc
# yum -y install gcc-c++
# yum -y install flex
# yum -y install bison
# yum -y install java-1.8.0-openjdk-devel.x86_64
# yum -y install ant
# yum -y install tk-devel.x86_64
# yum -y install imake.x86_64
# yum -y install libXt-devel.x86_64
# yum -y install libxml2-devel.x86_64
```

最新版をインストールするため, 以下のコマンドを行なってバージョンを確認する.

```
# yum list | grep ソフトの名前
```

続いて, ホームディレクトリに移動し.bashrc 内で JAVA_HOME のパスを指定する. .bashrc には vi コマンドで書き込む.vi は a キーで書き込み開始,esc キーを押したあと wq キーで保存となる. 以下に追加内容を示す.

```
# vi .bashrc
```

```
JAVA_HOME=/usr/lib/jvm/java-1.8.0-openjdk
export JAVA_HOME

PATH=$JAVA_HOME/bin:$PATH
export PATH
```

追加した後, 以下のコマンドでパスを設定する.

```
# source ~/.bashrc
```

3 Sapid インストール

Sapid の最新版を配布サイト [1] からダウンロードし, 以下のコマンドで解凍する.

```
# tar xvzf Sapid-6.104.4.tar.gz
```

解凍した Sapid のディレクトリの TOP(今回は Sapid-6.104.4) に移動し, 以下のコマンドを実行する.

```
# xmkmf -a | tee xmkmf_log
# make | tee make_log
# make install | tee make-install_log
```

「|」のあとに続くコマンドはログを保存するためのものである。
続いて、ホームディレクトリに戻り、`.bashrc` に以下のコードを追加する。

```
if [ -f /usr/local/Sapid/lib/SetUp.sh ]; then
    . /usr/local/Sapid/lib/SetUp.sh
fi
```

4 動作テスト

動作テストを行う際、32bit 用の `gcc` の環境を設備する必要があるので [2], `glibc` をインストールする。以下にインストールのためのコマンドを示す。

```
# yum install glibc-devel.i686
```

動作テストを行うため、`/usr/local/Sapid/sample/test` を適当な場所 (今回はホームディレクトリ) にコピーする。 `~/test/dhrystone-2.1` に移動し、以下のコマンドを実行する。

```
# mkSapid -a | tee mkSapid_log
# make test-all | tee dhrystone_log
```

Sapid: Test: dhry: Passed. という表示を確認できれば無事テスト成功である。
続いて `java` のテストを行うため、`~/test/java-zip` に移動し、以下のコマンドを行う。

```
# mkSapid -a | tee mkSapid_log_java
# make test-all | tee java-zip_log
```

Sapid: Test: java-zip: Passed. という表示を確認できれば無事テスト成功である。

参考文献

[1] Sapid (開発者向けカレント・リリース), <http://www.sapid.org/FTP-CURRENT/>

[2] CentOS 6.4 で 32bit 環境の整備, <http://d.hatena.ne.jp/kazuokohchi/touch/20140501/1398926081>